

【1.体制】

＜訪問リハビリテーション事業所・通所リハビリテーションコンパス＞

医師：1名（専任） 看護師：1名（専従） 理学療法士：3名（専従） 作業療法士：6名（専従） 言語聴覚士：1名（兼務） 介護福祉士：2名（専従） 計14名（2024年4月）

【2.取組内容と実績】

2023年度、在宅介護支援事業の訪問リハビリテーション（以下訪問リハ）、通所リハビリテーション（以下通所リハ）、介護予防事業（以下筋力up教室）は、新型コロナウイルス感染症の5類移行や在宅生活におけるリハビリテーションニーズの高まりも重なり、新規依頼数、延利用者数ともに、コロナ禍であった2020年度からの3年間と比較し改善・増加した。

1. 訪問リハビリテーション

(1) 2023年度訪問リハの依頼状況と利用者属性

総依頼件数70件（新規依頼件数）
（男性30名、女性40名 平均年齢81.8歳〈男性78.2歳、女性84.6歳〉）

表-1 訪問リハ依頼件数の変化（新規依頼）

年度	2019	2020	2021	2022	2023
依頼件数	97	83	61	58	70

表-2 訪問リハ実施件数（延べ件数）

年度	2019	2020	2021	2022	2023
依頼件数	4,306	4,187	3,811	4,164	4,422

(2) 訪問リハ実施件数の推移

2023年度における訪問リハの新規依頼件数は、前年度実績比較と比較し増加した。

新型コロナウイルスの5類以降に伴い、利用控えが解消し、かつ近年の訪問リハビリテーションニーズの増加に影響されたものと思われる。また、2024年度の介護報酬改定においても、訪問リハビリテーション事業の拡大・拡充が示唆されており、今後のニーズの増加が期待できる。

2. 介護予防・日常生活支援総合事業

(1) 2023年度筋力up教室の参加人数状況

表-3 延べ参加人数の推移

年度	2019	2020	2021	2022	2023
延べ参加人数	615	376	456	508	409

(2) 筋力up教室の参加状況の推移

2023年度は筋力アップ教室の参加者数は前年度実績と比較し減少した。減少の一因として、近年宇城市は地域における「通いの場」などの普及・支援を行っていたが、新型コロナウイルスの感染拡大によりこうした「場」が中止・閉鎖となっていた。新型コロナウイルスの5類移行に伴い多くの通いの場が再開し、参加者の住み分けが進んだことが考えられる。しかし介護予防に関するリハビリテーションにおいては、地域包括ケアシステム構築における重要施策でもあり、今後も宇城市・宇城市包括支援センターなど連携を取りながら事業を展開していきたい。

3. 通所リハビリテーション

(1) 通所リハビリテーション利用登録者数

登録者数147件(内2023年度新規契約60件)
（男性64名、女性83名 平均年齢82.5歳〈男性79.6歳、女性84.7歳〉）

通所リハ利用登録者数の推移

表-4 通所リハ利用登録者数の推移

年度	2019	2020	2021	2022	2023
依頼件数	124	126	118	125	147

通所リハ延べ利用者数の推移

表-5 延べ利用者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023	512	528	493	507	525	565	569	596	531	519	562	543	6,450
2022	380	372	410	357	338	370	387	410	380	365	435	515	4,719
2021	338	330	356	358	276	352	389	417	400	409	410	483	4,518
2020	515	414	390	377	366	368	431	411	445	421	432	471	5,041
2019	517	547	492	580	531	570	599	549	514	503	548	545	6,495

2023年度は通所リハ開設以来、最高の稼働状況となった。コロナ禍であった2020年からの3年間に比較し、延利用者数は大きく増加した。要因としては、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う利用控えの解消、生活期におけるリハビリテーションニーズの増加と推察される。また、事業所内の人員の体制整備、施設環境整備に取り組み、三角・上天草地域のリハビリテーションニーズに応えたことだと考えられる。今後も、在宅生活におけるリハビリテーションニーズは増加傾向にあり、地域住民また関係各所からのニーズに応じていくため、人員体制また施設環境整備にむけ取り組んでいきたいと考える。

通所リハビリテーションの効果(利用者の要介護度維持改善率)

対象：2023年度中に通所リハビリテーションを利用中であった142名（男性35名、女性55名）
※介護保険更新時、中止・入院などで経過を追えない利用者を除く
（男性63名 女性79名 平均年齢82.0歳
〈男性79.4歳女性84.1歳〉）

表-6 維持改善率

年度	2023		2022	
	人数	%	人数	%
改善	8	5.6%	5	5.6
維持	123	86.60%	74	82.22
悪化	11	7.70%	11	12.22
維持改善	142	94.30%	90	87.78

維持改善率：94.3% 前年比6.6ポイントup

改善率は前年度と比較して6.6ポイント上昇、維持率は4.4ポイント向上、また、悪化率は4.5ポイント低下した。維持改善率は94.3%であり、高い数値を維持できている。

【3.今後の課題】

当院周辺地域においては、人口減少・高齢化の進行に伴い、独居や老老介護など高齢者を取り巻く生活環境、介護環境の厳しさは増している。このような中、当院に求められる在宅介護、リハビリテーションニーズは複雑多様化している。

また、通所リハにおいては、2023年度計画していた介護福祉士の新規雇用ができなかった。介護職の人材不足は深刻であり、複雑多様化するニーズに加え、サービスを提供する側の体制整備に関する課題にも取り組んでいく必要性を感じている。

2024年度は、現状の実績を維持しつつ、介護・リハビリテーションニーズの変化、介護人材不足や施設設備の課題など介護事業の展開・方向性について協議・検討していく必要があると感じている。

しかし、当院の在宅介護支援事業部には、通所リハ、訪問リハ、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションが整備されている。院内連携、関係機関との連携を更に充実させ地域住民が安心して生活出来る地域づくり在宅リハビリテーションの立場から貢献したい。